

Ryuouzan
竜王山

★STORY★

標高 136 mの「竜王山」。人々は、この山を知らず知らずのうちに毎日のように見てきました。信仰の山として大切にすかたわら、ウォーキングや花見などで山に親しんできました。様々ないきものにとっても、やすらぎの場のように、アサギマダラやヒメボタル、多種多様な山野草が生育しており、いきものを惹きつける、不思議な力を発しているのかもしれない。「竜王山」は人々にとっても、様々ないきものにとっても大切な山なのです。

山の誕生

竜王山は人類の誕生より遙か昔、地中深いところで産声をあげました。山の各所で岩肌を露出する「緑色片岩⑦」。地中深くでつくられたこの岩石が隆起し、竜王山は誕生したとされています。竜王山の名前の由来ともいわれるのが「八大竜王宮③」。1600年前、仲哀天皇によって創建されたといわれています。

山を照らす光

太陽が地平線にさしかかるところ、西の空を茜色に染める「夕陽⑨」。茜色が濃紺に塗り変わると輝きはじめる「夜景⑩」は、溢れんばかりの宝石が散りばめられているかのようです。初夏には幻想的な「ヒメボタル⑪」の光が輝き、山道はまるで地上の天の川のように。

山を彩るいきもの

竜王山を彩るのは光だけではありません。四季折々、花や木、昆虫が山を彩ります。春になると山全体を淡いピンクに染める「桜⑫」。「旅する蝶」の名で親しまれ、あさぎ色のまだら模様の羽を持つ美しい蝶「アサギマダラ⑬」は、沖縄、台湾まで飛ぶ途中、10月に飛来します。多種多様な「山野草⑭」も山を色とりどりに染めます。まちや工場に取り囲まれながらも、竜王山は自然の宝庫なのです。

山が放つ不思議な力

竜王山にはパワースポットがいくつかあり、訪れるものに不思議な力を与えています。形状が耳孔に似ている深さ3mの穴「耳観音⑮」。中を清掃すれば耳の病気が治るといわれています。子安観音を祀り、子育て、子授けの観音として靈験あらたかと内外に聞こえる「子持御前⑯」。「ハマセンダン⑰」の巨樹は、国内最大級を誇り、見るものを圧倒し、大自然のパワーを感じさせます。

山と信仰

竜王山は、古くから信仰の山でもあります。社や石仏などが各所に建てられ、人々の心のよりどころになってきました。1927年、木戸の酒井常松は社会への感謝を込め、頂上近くに「大日如来像⑱」を建立し、桜10本を植えました。これを契機とし、竜王山は桜の名所になって行きました。中腹にある「薬師如来像⑲」には、セメントの塊があり、セメントを盗んだ男がバチが当たったのか苦しんだあげく、置いて逃げたといわれています。ふもと近くにある「風呂の川⑳」は、弘法大師が訪れて、湯を沸かし行水をしたと伝えられています。

